想断々（２）

北村透谷

青空文庫

兵甲と国家

兵甲を以て国威を張るは変なり。兵甲は寧ろ国家を弱め、人心を危うするに足るも、以て大に国力を養ひ、列国に覇たらしむる者にあらず。国の本真は気にあり。気若し備はらば業挙らむ。凡そ業なくして勇を談ずるは、仮勇なり。業は以て地歩を堅うし、仮勇は以て自らを危うす。

請ふ米国を視よ

米国は迺ち業の国なり。始めより肯て国際間の武威を弄せず。而して各国之を畏る。何が故に畏るゝ、曰く、国民の元気充溢し、百般の業の上に其真勇を睹ればなり。敢て兵甲を以て天下に傲らず、而も諸強国に対峙して遜色ある事なし。

彼は迫らず

蓋し彼は悠々として強弱の外に濶歩しつゝあるなり。彼は匠工なり、建設する事を心に留めて他を顧みず。蓋し猛虎も餓ゆるが故に他を攫す、然れども何の日か猛虎の全く餓ゆるなきを得む。猛虎の野に吼ゆるや、其音懼る可し、然れども、其去れる跡には、莫然一物の存するなし、花は前の如くに笑ひ、鳥は前の如くに吟ず。彼の匠工に至りては然らず、其建設する所一として空しきはなし。彼れ能く堅固なる鉄檻を作る事を知る、彼れ能く猛虎を捕ふるの術を知る。猛虎も遂に幾間の隘牢に甘んぜざるを得ざるの時なしとせんや。

憐れむ可きは戦病国

仏独相対して兵備日に厳なり。而して其中間に※まれたる以太利は遂に如何ならむ。邦運久しく疲れて産業興らず。民多くは一種固有の疾疹に困しむ。而して国境を守るの兵は日に多く、痩せたる民衆に課するの税斂は月に加ふ。先に拿翁の蹂躙に遭ひ、今後更に慮るところあり。昔日暴風雨を凌ぎ、疾雷閃電の猛威を以て、中原を席捲し去りたる夢は今何処にかある。平和の君、平和の君、切に此邦を憐れまれん事を願ふ。

闘犬

戦ひに死して背を敵に向けず、其勇は実に嘉すべし。然れども戦ふ為に産れ、戦ふ為に仆る可きは、夫れ仏国か。一大魔ありて人間界を支配するとせば、彼は仏国を以て一闘犬となしつゝあるなり。何となれば仏人は国利の為に戦ふよりも、寧ろ戦ひの為に戦ふ。平和、平和、遂に爾を煩はさざるを得ず。

（明治二十五年三月）

青空文庫情報

底本：「現代日本文學大系　6　北村透谷・山路愛山集」筑摩書房
1969（昭和44）年6月5日初版第1刷発行
1985（昭和60）年11月10日初版第15刷発行
初出：「平和　一號」平和社（日本平和會）
1892（明治25）年3月15日
入力：kamille
校正：鈴木厚司
2005年5月18日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

想断々（２）

北村透谷

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/